



山元町総合防災訓練(2015/8/29)

場所：宮城県亘理郡山元町

参加者：アナワット准教授，安倍助手，保田助手，林助手，山下研究員，牧野嶋（M2），戸川（B4）

宮城県亘理郡山元町は東日本大震災で大きな津波被害を受け、その翌年から毎年、継続して津波避難訓練に取り組まれています。特に山元町の特徴として、沿岸から高台まで続く平野の距離が長く、徒歩での避難が困難であることから、車を使った避難訓練に取り組まれているのが特徴です。津波工学研究室の所属する東北大学災害科学国際研究所は、町の避難訓練の結果を分析するなどして町の避難訓練をお手伝いさせて頂いており、今年で3回目の実施となります。

当日は、地震により大津波警報が発表された想定で行われ、午前9時頃の訓練開始となりました。当研究室のメンバーは、訓練前に、これまで2回の訓練から混雑が想定される交差点4箇所にビデオカメラを設置し、住民の方々の避難行動のようすを記録したほか、訓練中は、車で町内を巡回し、避難行動のようすを調査しました。震災以降、町での避難訓練も3回目となり、避難したことを示す玄関先のタオル等、住民の方々の工夫もみられました。

訓練後は、当研究室の保田助手が山下中学校にて講演を行い、住民のみなさんが熱心に講演を聞かれていたことや、住民の方々が主催する様々なイベントを楽しまれているのが印象的でした。



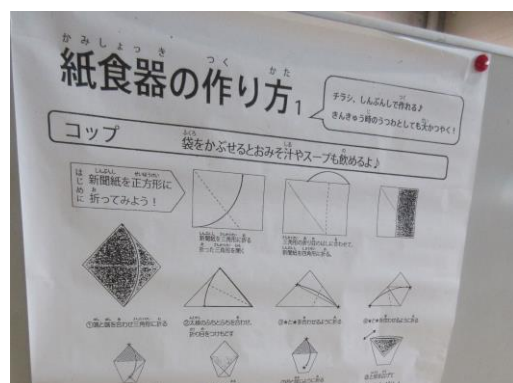
訓練中の交通誘導のようす



避難したことを示す玄関先のタオル



保田助手の講演のようす



住民主催アクティビティー例